

(1) 安全な水づくり

いつも安全な水をとどけるために、水道局では、どのような取組をしているのでしょうか。

貯水池や川での検査

水道水のもとになるのは貯水池や川の水です。水道局の水質センターでは、貯水池（ダム）や川の水がよごれていないか、定期的に調べています。まれに、油が流れていたり、魚がたくさんういていたりして、川の水がよごれていることがあります。水がよごれがひどくなると、貯水池や川から水を取ることができなくなってしまいます。そういうときは、すぐに出動して、どのくらいよごれているのか、よごれのもとがどこから流れてきたのかを調べます。



▲貯水池の水の検査 ▲川の水の検査

浄水場での検査

浄水場では、湖や川から入ってきた水道水のもとになる水や、きれいにしている途中の水、そして最後にきれいにできた水の検査をしています。また、浄水場だけでなく、水質センターでも、いろいろな機械やけんびきょうを使って、飲み水としての基準をみたしているかをたしかめるために、くわしい検査をしています。



▲浄水場での水の検査

おいしくて安全な水をとどけるためには、いろいろな検査が必要なんだね。



じゃ口から出る水の検査

じゃ口は水道を利用する人に一番近いところ。そのため、水質のきめ細かくきびしいチェックが必要です。水道局では、水質の検査を自動で行う機械を使って、都内131か所で毎日24時間検査しています。また、じゃ口から出る水について、定期的におい・味などのたくさんの項目の検査をしています。



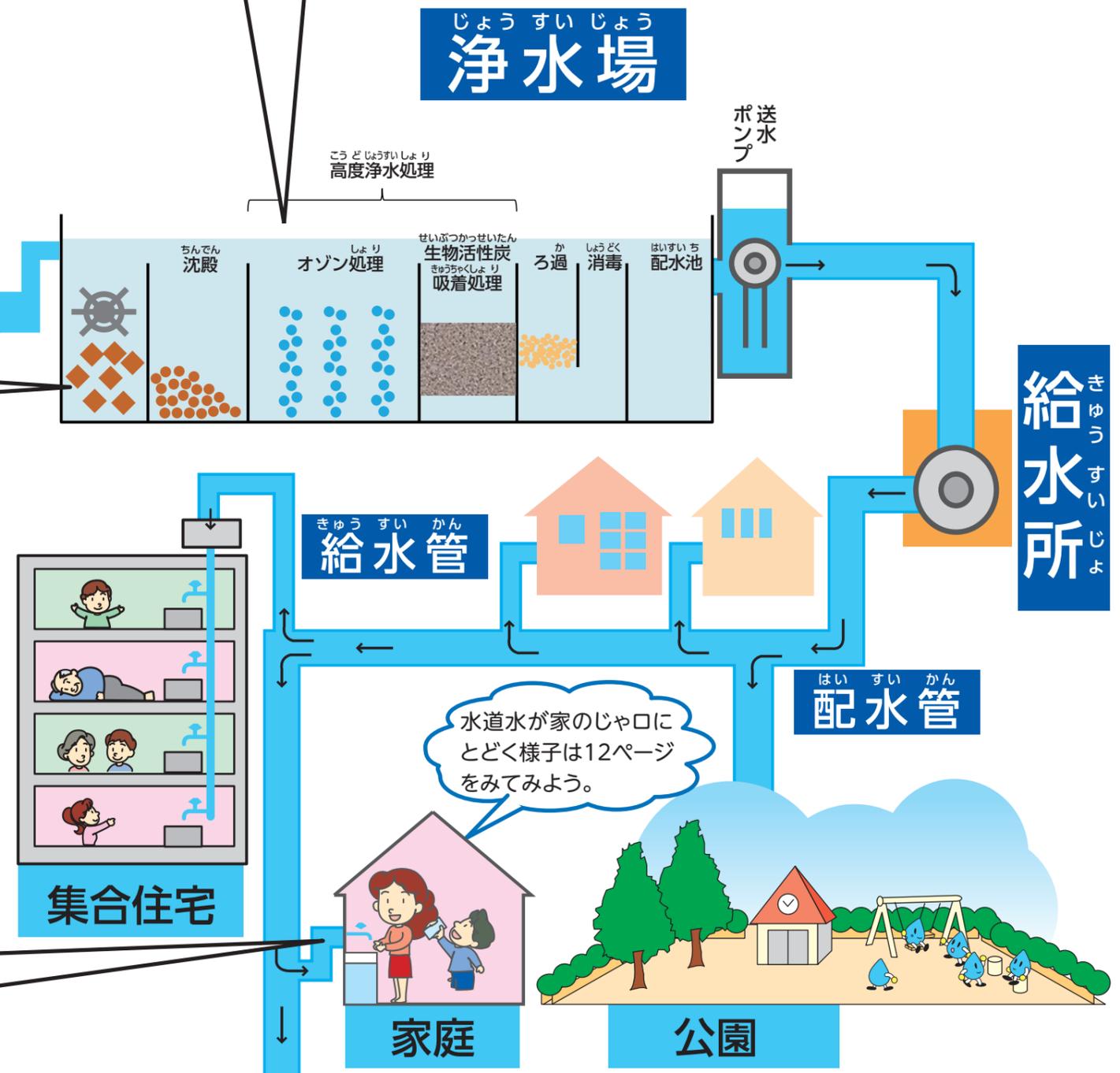
▲自動水質計器

(2) おいしい水づくり

いつもおいしい水をとどけるために、水道局では、どのような取組をしているのでしょうか。

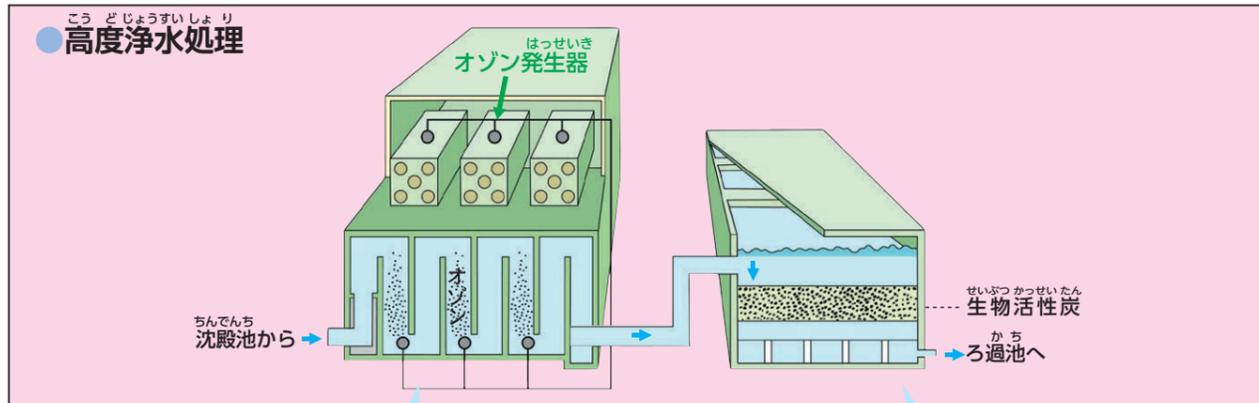
おいしい水にするための工夫（高度浄水処理）

水の味を悪くするカビのようなにおいのもとの中には、浄水場でやっている「沈殿→ろ過→消毒」では完全には取りきれないものがあります。そこで、オゾンや生物活性炭を使った「高度浄水処理」という方法を取り入れ、より安全でおいしい水をつくっています。→くわしくは11ページをみてください。



高度浄水処理のしくみ

オゾンには、においのもとをバラバラにする働きがあります。バラバラになったにおいのもと、活性炭に取り込まれたり、微生物に食べられたりします。こうして、においのもとが取り除かれたおいしい水をつくることのできるのです。



オゾンのはたらきのイメージ

においのもと

オゾン

オゾンがにおいのもとをバラバラに分解。これがオゾンのはたらき!

生物活性炭のはたらきのイメージ

オゾンでバラバラになったにおいのもと

活性炭

微生物

生物活性炭

オゾンがバラバラにしたにおいのもと

においのもとを微生物が食べる

これが生物活性炭のはたらき!

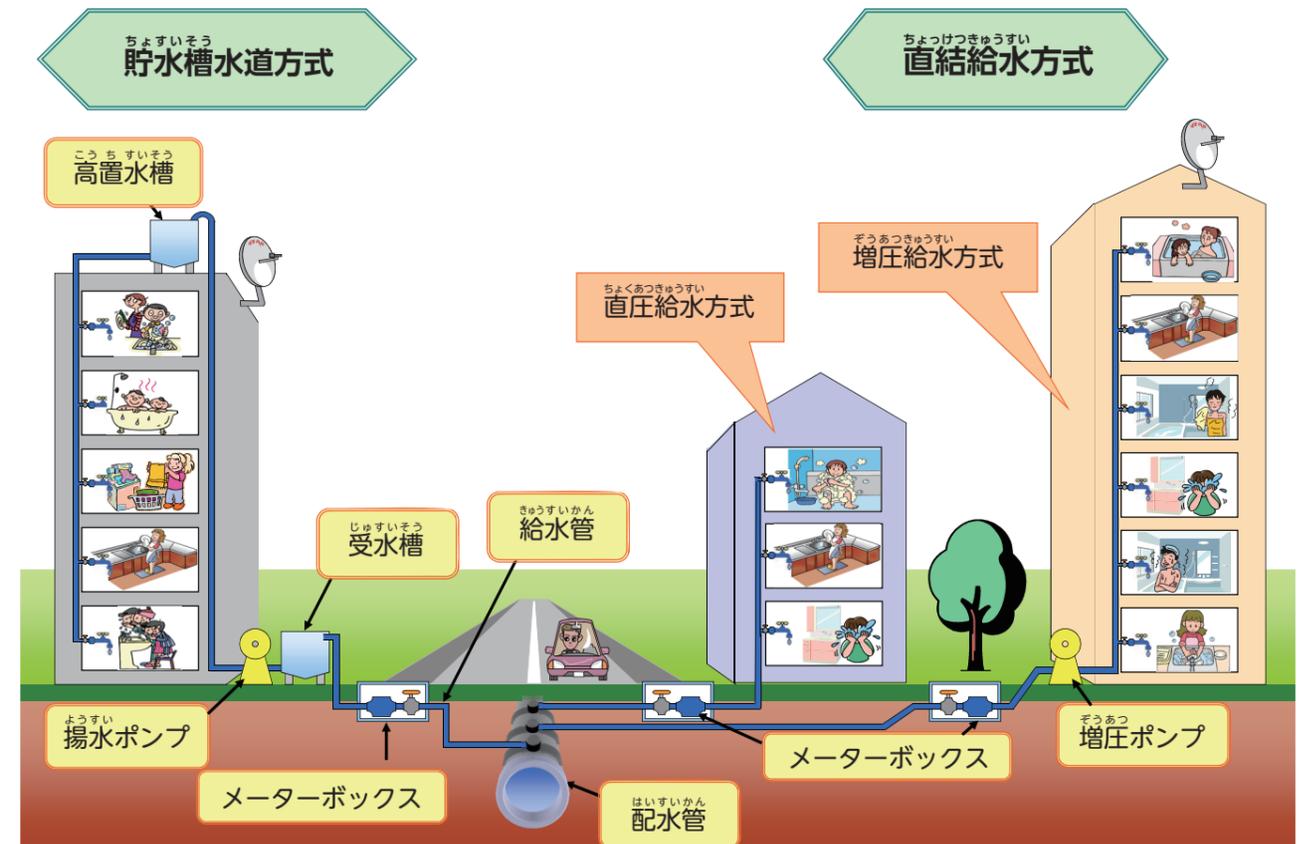
オゾンを注入しているところ

この一粒一粒が水をきれいにしています!

0.5mm

生物活性炭の拡大写真

水道水が家のじゃ口にとどくまで



貯水槽水道方式

水を受水槽にためて、ポンプなどを使ってじゃ口に送る方法です。

直結給水方式

浄水場でつくられたおいしい水を、受水槽にためずに、直せつじゃ口に送る方法です。

水道局の人の話

においのないおいしい水をとどけるため、浄水場に高度浄水処理を取り入れたり、古い水道管の取りかえをしています。また、直結給水方式への切りかえをすすめています。